第５号　2013 年９月 15 日

仙台教区　復興支援活動ニュースレター

４→６・４５通信

発行人：平賀徹夫　編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371　FAX 022-222-7378
義援金振替口座：０２２６０－９－２３０５
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

4→6・45 通信５号は、仙台市の一本杉教会と、福島市の松木町教会が、仮設住宅の方々と一緒に夏祭りをしたこと、岩手県の宮古教会が支援活動の様子をご報告くださいました。今度は皆さんの教会の番です。皆さまの教会でなさっている活動のご紹介をお待ちしております。

カリタス若林サポートセンター(SC)
～仮設住宅の夏祭り～

一本杉教会　　淀川 喜正

８月 11 日（日)、荒浜（深沼地区）の多くの人が入居している、仙台市内の東通仮設住宅町内会において、【夏祭り・納涼ﾊﾟｰﾃｨｰ】が、仮設の自治会と私達カリタス若林 SC との共催で行われました。

＊カリタス若林 SC は、一本杉、畳屋丁、西仙台の３つの教会の信徒でつくられた支援団体です。

これは昨年の【夏祭り・納涼ﾊﾟｰﾃｨｰ】が、仮設の皆様に大変喜ばれ、好評だったことを受けて、今年も是非との要望があり、昨年に引き続き行われることになりました。昨年もそうであったように、【七夕飾り】を今年も併せて行いました。

大震災から約２年半が経って、復興住宅に移る前の一時を、色々な悩みや葛藤を忘れ、明るく楽しいこのイベントに参加して、大いに盛り上がりたいという意気込みが感じられました。

【七夕飾り】は８月６日～8 日の期間に飾るべく、私達が毎週水曜日に実施している「コーヒタイム」に仮設の皆さんと一緒に作り、七夕期間中だけでなく、当日も飾りました。

会場には、仙台ダルクのメンバーによる「焼そばコーナー」、手作り「カキ氷」、「飲物販売」などの出店が、所狭しと並びました。特に「焼そばコーナー」は終日満員盛況で、途中に品切れとなり、追加調達のハプニングがありましたが、忙しくも賑やかな一日でした。

イベントのトップは、仮設の皆さんが毎週練習していた“大正琴”の心を込めた演奏で始まりました。地域の“仙台すずめ踊り”の群舞、仮設の皆さんや私達の女性メンバーが輪になって“がんばれ援歌”、“盆踊り”などの踊りと続き、会場は参加者も一体となって華やかな雰囲気に包まれました。

最後に、山形天童市から駆けつけた和太鼓“龍”のチームが、大音響の太鼓でフィナーレを飾り、暑い真夏の宵を閉じました。これからも私達のあゆみは留まることなく、自分達ができる小さな事を、我々を必要として下さる限り、寄り添いそして支え続けます。

夏祭り・浪江盆踊り

松木町教会　　鈴木 教弘

８月 17 日（土）夕刻、福島市宮代仮設住宅で昨年に引き続き夏祭りが行われた。今回も東京教会管区から大勢のボランティアさんが駆けつけて下さった。

紅白の幕を張った太鼓櫓は、宮代仮設の皆さんが炎天下の中、二日前から組み立て、テント張り、提灯下げなど設営に、日に三度も着替えるほど汗を流して準備された。この夏祭りも自治会とボランティアが一緒に案を練り、役割を分担して準備した。

浪江焼ソバは、仮設住民のプロの方が引っ張りだこの中、優先して都合をつけて下さった。韓国の名物チヂミ焼は、仮設住民で韓国出身のプロの方をチーフに、秘伝のたれの作り方も伝授しながら和気あいあいで準備していた。焼き鳥のたれもこれまた仮設住民の方の秘伝のたれで、ご本人は当日どうしても参加できないことから、前もって作り、自治会長に預けて下さった。皆の熱意がひしひしと伝わって来る。小粒じゃがいものから揚げなどは、ボランティアさんが教会で朝から準備して運んだ。これら盛り沢山の食べ物、飲みもの一切無料。

暑さも少々引いた夕刻、原町ベースの方の進行で、定刻開会。萩野自治会長様の挨拶、幸田司教様の挨拶の後、司教様による黙祷で震災犠牲者の方々のご冥福を祈った。アトラクションのオープニングに炎暑を吹き飛ばす和太鼓が鳴り響いた。パープルの鮮やかな衣装でしなやかなフラダンス。子供たちのじゃんけんゲーム、ヨーヨー釣り、輪投げなど、西瓜割りは子供も大人も参

加し、司教様と自治会長さんの一騎打ちに湧く。その間、喉をうるおし、腹を満たし、盆踊りに備えた。

いよいよ盆踊り！　相馬盆唄の歌い手は、仮設住民で愛称ヒデばあちゃんと今回も応援に駆け付けて下さった弟さんの尺八、ご家族にプロの民謡歌手もおられるだけあって、お二人で踊りの始めから最後まで朗々と歌いきった。

盆踊りは、踊りの先生（宮代仮設住民）の先導で始まり、今年は仮装大歓迎としたので、入念に準備された衣装と帽子の飾り付けをした方、面を付けて愛きょうのある仕草の方、焼ソバを作り終えて踊りでも頑張る方、江戸火消しはっぴ姿の凛々しい司教様、ボランティアが八重の桜の姿と樽美酒姿で共に「ならぬものはならぬのです　原発廃炉をめざして」の短冊を背に張り付けて登場。仮設の男性がチャイナ服女装の姿に歓声。踊ること１時間、その間に幸田司教様、萩野自治会長様、CTVC 辻さんによる仮装賞審査。「よがったで賞」「がんばったで賞」「たのしがったで賞」「かわいいで賞」「たまげたで賞」そして相馬盆唄歌い手のお二人と和太鼓手に特別賞を贈呈して、踊り手も見物者も楽しさを満喫した。

この日は、日頃仕事などで参加できない方も、盆休みで１年ぶりに顔を合わせることが出来た。また、離れた仮設の家族の方、縁者、知人、友人など大勢の人が参加し、交流を深めることが出来た。常に心にかかる原発被災の思いからひととき離れて、元気を出した良い時間であり、希望に向かって歩むために共に励まし合ったひとときであった。

遠くから、近くから支援して下さる皆さまに心からの感謝のうちに、これからも共に支え合い、共に祈り、共に力を尽くして行きたい。

宮古教会の「わかちあいマーケット」活動

宮古教会　伊藤 純子

震災直後は、何かをしなくては、と個人的な支援活動で毎日動き回っていましたが、宮古教会としての活動ができたのは、北海道からの援助のおかげです。

被災者がその当時、何を必要としているか、何をして欲しいかを聞き、それに答える方法として考えたのが、「わかちあいマーケット」でした。最初は食料品だけでしたが、全てを無料で提供しました。周知のため、被災はしていないご近所にも案内をしました。（第１回 2011.4.28.）

２回目からは、北海道の教会ばかりでなく、全国の方々から送って頂いた衣料品、日用雑貨品も含めて、次第に品数、数量を増やし、

周知方法は口コミと避難所にポスターを貼ってもらっての小さな宣伝でしたが、皆さんには、教会まで取りに来ていただきました。

第４回からは、自立の応援ということで、一部格安有料としました。2011 年に５回、2012 年に２回開催し、2013 年も２回行う予定です。

これまで、「このやり方でいいのか？」を教会委員会で話し合ってきましたが、来場の皆様からの「助かります。」「ありがたいです。」との声を聞く度、また、日差しの暑い日でも、みぞれ交じりの悪天候でも、並んで待ってくれている姿をみると、この方法で良かったのだと確信しています。

周知の方法も、被災者の方々が仮設住宅やみなし仮設住宅へ入居した後は、チラシやポスターの他に、市の広報、地域の防災エフエム放送を利用して、広くお知らせするようになりました。市民の皆さんがカトリック教会に気軽に来られるように、開かれた教会を目指すために、教会でできることを、信者だけでなく、被災者とも協 力し合って進めていけたらと考えています。

札幌カリタスでは、移動カフェ活動を継続的に続けています。遠い北海道から、ありがたいことです。普段の宮古教会は、カフェ活動や盛岡からの支援活動には、信徒何人かが手伝うぐらいです。わかちあいマーケットで支援できる財源も、11 月３日開催予定の第９回分はありますが、無くなったら終了ということになるのか、その後は決まっていません。出来るだけ継続して支援できる何かを、皆さんに喜んでもらえる何かを見いだすことができればと思います。

様々な活動をしてきた中で、当初はいろいろ虚しく、哀しく感じた時もありましたが、神様のお計らいで、ほとんどの障害も迂回しながら通り越すことが出来ました。緊急時には先に立つ人の英知と指導力が重要だと感じましたが、個人個人は良きサマリア人の行動を実践できればいいですね。個人的なエゴ、建前論ではなく、キリストの教えにならい、祈りと愛の実践の教会（自分）にしていきたいものです。